



## 平成26年度 さくらキャンパスM1 研究スタート支援

さくらキャンパス M1 学生を対象に、研究(研究医)に興味を持ってもらうための試みとして、本年度は3つのプログラムを実施しました。

- ① M1 特別体験実習      ② ラボ見学      ③ ランチタイムトーク

### ① M1 特別体験実習

本プログラムへの登録希望者が全学生の1/3を占めており、多くの学生が研究に興味を持っていることが分かりました。さらにアンケート調査では、実際に自分で手を動かして基礎研究をやってみたいという希望が多く聞かれました。そこで、6月にプログラム登録学生を対象としたM1特別体験実習を行いました。さくらキャンパスで一般教育研究室の先生方をお願いし、主に「遺伝子」に関する実験を指導していただくことになりました。27名のM1学生が参加登録し、下記の3つのテーマに分かれて実験の基礎を学びました。研究医への第一歩として、貴重な体験となりました。



#### 遺伝子工学の実践

(化学 馬場先生 担当)

● ラボノートの重要性和書き方を理解する  
分子生物学の基本的な実験手技の習得、およびDNA電気泳動、タンパク質電気泳動、ウエスタンブロットなど遺伝子工学の初歩的な原理を理解する。

#### ALDH2の多型分析

(生物 和田先生・松本先生 担当)

● ラボノートの重要性和書き方を理解する  
分子生物学の基本的な実験手技の習得、およびDNA電気泳動、PCR、プローブハイブリダイゼーションの原理・概念を理解し、多型を分析する。

#### 統計学の医学への応用

(数学 奥野先生 担当)

● ラボノートの重要性和書き方を理解する  
統計学の基本概念、医学への応用を理解する。実際にサンプリングを行い、統計結果から考察を行う。

### ② ラボ見学

2014年6月28日(土)、M1学生を対象に本郷・お茶の水キャンパスのラボ見学を開催しました。参加者はこれまでで最も多く、大半がさくらキャンパスでの特別体験実習に参加している学生でした。土曜午前の2時間だけという限られた時間でしたが、2班に分かれて5つの講座と研究基盤センターを見学し、それぞれのラボで研究概要や機器についての説明を受けました。見学終了後、上級生も参加して教員とともに食事をとりながら約1時間歓談しました。午後は個別に興味のあったラボを見学したり、公開シンポジウムに参加したりする学生もおり、研究に対する強い意欲が感じられました。7月12日(土)には別の3講座を見学し、いくつかの講座で夏休み中にM1学生を受け入れました。研究意欲の高い学生が早期に研究を開始できる体制の整備が順調に進んでいます。



## 基礎研究医養成のための順天堂型教育改革

平成24年度 文部科学省事業「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」「医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成」に採択されました。(39大学申請、10大学選定)

- ・この事業は、医学部及び医学系大学院において、魅力ある基礎研究医養成プログラムを構築する優れた取組みを支援するものです。
- ・これまでの研究医養成枠、基礎医学研究者養成奨学金貸与等の取り組みに加え、医学部・大学院をシームレスにつなぐ特別コースを実施します。

## 基礎研究医養成プログラム専用スペース



本郷・お茶の水キャンパス  
センチュリータワー南  
7階S703

最新情報はコチラ → <http://www.juntendo.ac.jp/kenkyui>  
お問合せはコチラ → e-mail : [kenkyui@juntendo.ac.jp](mailto:kenkyui@juntendo.ac.jp)

### ③ ランチャイムトーク

毎週月曜のランチタイムを利用し、先輩学生や教員から研究の話  
を気軽に聞く機会を設けました。本郷・お茶の水キャンパスから  
のTV中継またはさくらキャンパスで直に先輩から「どのように  
研究を始めたのか」「どんな研究をしているのか」などを紹介し  
てもらい、質疑応答を行いました。

① 4/21 (月)

M3 **山田 泰平君** (老人性疾患病態・治療研究センター所属) (TV中継)  
研究する医者を目指して～研究入門から短期留学までの体験～

PickUP

② 4/28 (月)

一般教育研究室(生物) **松本 顕先生**・**和田 麻理先生** (さくらキャンパス)  
基礎研究医養成プログラムに関するM1学生座談会

③ 5/12 (月)

解剖学・生体構造科学講座 **市村 浩一郎先生** (さくらキャンパス)  
解剖学者のライフワーク～動物における腎臓の起源と進化～

④ 5/19 (月)

整形外科 **定月亮先生** (TV中継)  
医師における基礎研究の重要性～大学院での研究について～

PickUP

⑤ 5/26 (月)

M4 **中村 聡君** (解剖学・生体構造科学講座) (TV中継)  
基礎研究医養成プログラムでの活動～学会発表を体験して～

PickUP

⑥ 6/2 (月)

泌尿器科 **河野 春奈先生** (TV中継)  
外科医の基礎研究～外科医は基礎研究に向いている!?～

PickUP

⑦ 6/9 (月)

一般教育研究室(生物) **松本 顕先生** (さくらキャンパス)  
概日時計の分子メカニズム解析

⑧ 6/16 (月)

M3 学生有志 (TV中継)  
基礎研究医養成プログラム 学生座談会

⑨ 6/23 (月)

一般教育研究室(化学) **馬場 猛先生** (さくらキャンパス)  
ネオマイシン耐性遺伝子を用いた部位特異的遺伝子組換え

⑩ 6/30 (月)

老人性疾患病態・治療研究センター **平澤 恵理先生** (TV中継)  
医師のキャリアパスの多様性について～神経内科専門医として  
マトリックスバイオロジー研究を開始した経験から～

PickUP

PickUP

⑥ 6/2 (月) 泌尿器科 **河野春奈先生**

河野先生は外科系研修後、女性で初めて泌尿器科に入局されました。そ  
して研究を志して大学院に入学し、自ら病理・腫瘍学(分子病理病態学)  
の門をたいて小林先生に師事し、腎臓の幹細胞の研究を行って学位を  
取得されました。現在は泌尿器科の臨床業務の傍らラボの立ち上げを行  
い、1児の母としても多忙な中を、新  
入生キャンパスに引き続き後輩学生に研  
究の楽しさを分かりやすく話してくだ  
さいました。今後も臨床研究・基礎研  
究・子育てとますますのご活躍が期待  
され、さらに海外へも活躍の場を広げ  
ていくとのことでした。すばらしい  
ロールモデルとして、後輩特に女子学  
生にとっても良い刺激となりました。



PickUP

① 4/21 (月) M3 **山田泰平君**

山田君は、ラボ見学で興味を持った老人性疾患病態・治療研究セン  
ターで研究を開始したこと、現在行っている脳機能解析研究、そし  
て3月に行った韓国 UNIST 短期研究留学について紹介してくれ  
ました。M1学生からは研究開始に関して、また M3学生からは今  
後の活動の展望などに関する質問が出ました。先輩の話聞いて  
本プログラムに興味を持ち、  
研究を始めたいと考える M1・  
M2 学生からの問い合わせが  
あり、山田君の軽快なトーク  
が後輩達に研究の素晴らしさ  
をうまく伝えてくれたよい影  
響だと考えられました。



PickUP

④ 5/19 (月)  
整形外科大学院 4 年生 **定月亮先生**

整形外科に入ったきっかけ、臨床において難治である変形性膝関節症を研  
究対象に選んだこと、そしてその治療を目指して現在行っている滑膜の再  
生医療研究について紹介していただきました。臨床に直接かかわる基礎研究で  
あり、またプロスポーツのチームドクター  
としても活躍されていることで、ご講  
演後は活発な質疑応答となりました。  
臨床医も基礎研究力を持つことが大切  
であることをお示しいただきました。



PickUP

⑤ 5/26 (月) M4 **中村聡君**

後輩の学生たちに自身の基礎ゼミでの研究から学会発表までの経験を話して  
くれました。中村君自身は元々研究に興味があったわけではなく、3年次の基礎  
ゼミで解剖学・生体構造科学講座の栗原秀剛先生のご指導によって研究の面白  
さに目覚め、基礎研究医養成プログラムに登録しました。新たに発見した  
KIF11の腎臓における局在を学会で発  
表し、学生セッション優秀発表賞を受賞  
したことで、さらに研究への意欲が増し  
たそうです。現在は学業との両立が大変  
ですが、今後この KIF11 蛋白の機能を  
解析し、病気との関連を調べて国際学会  
での発表と論文作成を目指します。



PickUP

⑩ 6/30 (月) 先任准教授 **平澤恵理先生**

研究医 (MD 研究者) が不足している現状とそれに対する各大学の取り組みにつ  
いてお示しいただきました。平澤先生は本学卒業後、神経内科医として臨床をス  
タートされ、その後研究員時代や米国 NIH 留学を経て臨床と研究を両立させ、業  
績をあげていらっしゃいます。臨床と基礎研  
究を自分の中でリンクさせているというこ  
とで、京都大学中尾一和教授の言葉を引用して  
基礎研究と臨床のかけ橋となる「Physician  
Scientist」について、学生への逆質問を交  
えて話していただきました。本プログラムの  
教員として、今後も学生の研究活動の支援や  
様々な相談に応じて下さいます。



本プログラムに興味のある方は、下記までお問い合わせ下さい。

さくらキャンパス

○相談窓口 事務部 教務課 (0476-98-1001、内線 215)

本郷・お茶の水キャンパス

- 内容について 基礎研究医養成プログラム室
- 具体的な相談について キャリア支援相談室
- 手続き・その他について 本郷・お茶の水キャンパス事務室 (03-3813-3111、内線 3221)